

- 1 原稿は、「ワード」または「一太郎」で記して、図はJPEG形式またはPowerPointで読める形式として、メールでお送りください。その他のワープロソフトを用いる場合は、テキストファイルもお送りください。
- 2 原稿の並べ方は、原著論文では、①題名、著者名、所属、②要旨と索引用語、③本文、④利益相反、謝辞、その他ノート、⑤文献、⑥表、⑦図の順としてください。図表の適切な部位を原稿の間あるいは横に示してください。原稿の種類によって、適宜この構成の中から必要な部分を選んで、原稿に記してください。また、英文抄録を掲載する場合は、200字程度とし、題名、著者名、所属名の英文も添えてください。
- 3 題名は、論文の内容が一読して分かるようにするとともに簡潔に示してください。複数の著者の場合、すべての著者が論文に対して共同責任あるものと見なされますので、研究に貢献のあった氏名のみを著者としてください。所属長という理由のみで共著者とすることはできません。所属は、研究の行われた施設を示してください。連絡先が筆頭著者ではない場合には、連絡者を明記してください。その他、特記事項を示してください。
- 4 要旨には、研究（報告）の目的、方法、結果および結論を400字程度にまとめてください。また、3～5語の索引用語を示してください。索引用語は、題名に現れていないもので、研究の内容を示唆する語を挙げてください。
- 5 本文は、「はじめに」または「緒言」、「方法」、「結果」、「考察」の順に書いてください。
 - 1) 「はじめ」「緒言」には、研究の目的を明示することが必要です。関連するすべての文献を網羅する必要はありません。重要文献を目的と関連させて導入としてください。
 - 2) 「方法」には、少なくとも他の研究者があなたの研究を再現できるように詳しく書くことが必要です。統計手法も「方法」の最後に記載してください。なお、倫理面における特記では、機関または関係団体の倫理委員会を経ていること、あるいはどのような配慮を行ったかを明記してください。倫理的に問題ある場合は、受付をお断りすることがあります。
 - 3) 「結果」においては、「図表」にある数値を、重複してすべて述べる必要はありません。強調したいデータを中心に記載してください。
 - 4) 「考察」では、研究で分かった新しい点、あなたの強調したいことを中心に述べてください。過去の研究のすべてを網羅するのではなく、あなたの研究に深い関連のある事柄を中心に必要あれば文献を挙げて論じてください。「考察」の最後に、(結果の繰り返しでなく)研究成果の意義を簡潔に述べることも勧められます。
 - 5) 「結果」および「考察」は、論文によっては「結果および考察」としてまとめた方が理解しやすいときもあります。また、それぞれのセクションが長くなる場合には、サブタイトルを付けた方が理解しやすい場合もあります。
- 6 「利益相反」については、評価に関する論文で扱う薬剤や器機を含む全ての製品において、過去3年間に当該製品の製造・販売元との間に資金的あるいは個人的つながりがあれば、その内容を明らかにしてください。資金的・個人的つながりには、雇用、顧問、株式保持、報酬、謝礼、特許(申請中を含む)、証言料、旅費を含みます。
- 7 「謝辞」等には、研究には直接関与しなかったものの援助を惜しまなかった指導者、データを得るにあたって協力した人・機関、技術的な援助をした人・機関、あるいは論文を検討・査読した人等、著者が必要と考えたところを入れてください。また、寄付・奨学金等

の源は必ず明記してください。その他、研究するにあたり特記事項があれば示してください(先行論文の明示等)。

- 8 「文献」は、論文の中(図表を含む)に現れた引用順に算用数字で右肩付きで1)、2-4)のように示してください。同一文献に異なる番号は振らずに、初出の文献番号を使用してください。文献欄には、著者名. 題名. 雑誌名 発行年; 巻: 始ページ-終ページの順に記してください。単行本は、単著者の場合、著者名. 本名. 出版社所在地名: 出版社名、発行年、(必要あれば: 始ページ-終ページ)の順、複数の著者の場合には、その論文の、著者名. 題名. 編者名、本名. 出版社所在市名: 出版社名、発行年(必要あれば: 始ページ-終ページ)、の順に記してください。雑誌や単行本以外を文献とする場合にも、この順番でそれぞれ明示できる項目を記してください。著者が複数の場合には、6名以内では全員の名前を、それより多い場合は6名まで記して、その他、を付け加えてください。雑誌の略号は、欧文はIndex Medicusの略号、日本文は通称または医学中央雑誌の略号を使用してください。

(例)

- 1) 藤田あけみ、相馬美香子、葛西恵美子、川崎くみ子、成田敏子. 大腸癌手術症例のQuality of Lifeの検討—病名の認識と告知との関係を中心に—. ホスピス・在宅ケア 1993;1:4-9.
 - 2) 大熊一夫. この国に生れたるの不幸—二 冤罪・千葉大学腸チフス事件. 東京: 晩聲社, 1991.
 - 3) 隅谷三喜男. アジアの貧困と疾病. 松村武男、石井明 編、動物・昆虫性疾患と国際交流. 神戸: 祥文社, 1993:8-16.
 - 4) Rostom AY, Gershuny AR. Access to patient records. Lancet 1991;338:1337-1338.
- 9 表は縦線を使用せず、横線のみを使います。表の番号は、原稿に引用される順番に算用数字でふってください。表は、それを見ただけで本文を読まなくとも内容が理解できるように作成してください。表の題名(タイトル)を上示し、必要あれば詳しい説明を表の下に並べてください。統計結果があれば、表の説明に追加ください。なお、理解し難い略号を使用する場合や数字の単位・表現が通常でないときなど、それを表の中ではa) b)等と右肩付きで示して、表の下にa) b)等で説明してください。
- 10 図は、原稿に引用する順番に算用数字で番号をふってください。手書きの図は受け付けません。そのまま印刷できるように明瞭に作ってください。図の説明書きは図とは別に原稿の最後にまとめてください。表と同様に図の説明にも配慮してください。ファイルはJPEG形式またはPowerPointで読める形式にしてください。カラー印刷は特別料金となります。なお、口頭発表と誌上発表は異なります。原稿では、文章化しても分かるものは本文中に文章として載せます。また、スライドと誌上では、図のバランスが異なることに留意ください。
- 11 [短報]は[原著]の書き方に従って書いてください。[症例報告]、[経験]等は、「方法」と「結果」のセクションに、症例・経験の説明が入ることになります。他は[原著]に準じます。
- 12 論説、総説、提言、評論、手紙等は、[原著]の形式の中からそれぞれに必要な項目を、[原著]に準じて著者が適当と思われるまとめ方をしてください。[講座]等で長くなる場合には、複数号にわたって掲載することも考慮します。
- 13 交流会報告、カンファレンス記録等は、適宜形式をとってください。この「原稿の書き方」にそぐわない論文は自由形式で書いてください。
- 14 原稿(論文)作成にあたっては、最新の「ホスピスケアと在宅ケア」を参照することをお勧めします。もし、不慣れな件(統計処理等)があれば、躊躇なくお問い合わせください。
- 15 自由なイラストや写真(白黒)も募集しています。メールでお送りください。
- 16 不明な点は、編集委員まで、遠慮なくお問い合わせください。